

「社会共生実習」とは、龍谷大学社会学部の全3学科が共同運営する地域連携型の実習です。



■社会  
■共生  
■実習

2024.3.1発行

発行元

龍谷大学 社会学部  
社会共生実習支援室

〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田キャンパス内

社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230

FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp

## 2023年度「社会共生実習」活動報告会をおこないました

1/12（金）に社会学部の全3学科横断科目「社会共生実習」の全8プロジェクトが一堂に会して活動報告会を開催しました。第1部では、まず各グループ2分ずつ、今年度の活動成果の概要を発表しました。その後、第2部ではポスターセッションをおこないました。受講者が1年間の活動をポスターにまとめ、壁またはホワイトボードに貼りだし、適宜説明をおこないました。参加者のみなさんが、閲覧したポスターで気になったところや疑問に思ったことなどを受講生に自由に質疑応答したり、意見を交換したりしました。どのプロジェクトも受講生の成長した姿を披露してくれました。



### 西方寺1111年祭とのコラボレーション

「お寺の可能性を引き出そう！—社会におけるお寺の役割を考える—」（担当教員：猪瀬優理教授、古荘匡義准教授）は、地域社会におけるお寺の役割と可能性について考えるプロジェクトです。受講生たちは自分たちが「お寺の可能性を引き出す」ためにできることは何か考え、地域活動をしているお寺やお寺で地域活動をしている団体と受講生自身が連絡を取り、ともに連携して取り組める活動をしています。11/11（土）に、浄土宗 治田山 慈眼院 西方寺で開催された「開基1111年祭」に参画させていただき、龍谷大学と西方寺とのコラボレーション企画は、西方寺の方よりご提案いただいた「メッセージボード」の設置です。来場して下さった皆さんに、受講生たちが考えたテーマのもと、付箋にメッセージを書いて貼っていただきました。受講生たちのアイディアで、1111年祭とポッキーの日にならみ、メッセージを書いて下さった方々にポッキーやブリッツを配りました。

メッセージボードにそれぞれの人の願いを書いていただくことで、それぞれの思いを持ちながらお寺にやってくる一人ひとりの方との交流の機会を持つことができ、より、お寺にやってくる人びとの思いに近づくことができました。



▲お釈迦様にかなえてほしい願いごとを書いてきたボードに貼りましました

### 介護ツアー計画の立案に向けてのインタビュー

「いくつになっても出かけられる～高齢者を元気にする介護ツアー企画～」(担当教員：高松智画准教授)では、11/10（金）に、高齢者を対象とした介護ツアーを計画するにあたって、意見を参考にさせていただくべく、高齢者のゲストの方々インタビューをおこないました。外出や旅行に対して気を付けていることや、介護ツアーへの希望などの意見を伺いました。車いすで「外出する際にどんなことに気を付けているか」「外出する際にどんなことに困るか」などの質問に対し、少しの段差でも一人で押すことはとても大変であること、ストッパーのおろし忘れに一番気をつけていることなどを教えてくださいました。「どのような場所に行ってみたいか」や「もう一度行ってみたい場所」などの質問に対し、今までに訪問された場所での思い出を交えながら熱心にお答えくださいました。穏やかにお話しくださるゲストの方々のお話に、受講生たちはしっかりと耳を傾け、時間が許す限り質問をしていました。最後には全員で記念写真を撮り、終始和やかな雰囲気でのインタビューを終えました。現在、受講生は何った意見を取り入れながら3月の実施に向けて活動しています。



▲話に耳を傾ける受講生

▼多くの質問にも真摯にお答えくださいました







◀ かぼちゃスープと  
焼き芋の準備中



◀ 接客する学生の様子

## 焼き芋で農福連携を知ってもらう！

実習先とのコラボレーションでマルシェを開催しました

「農福連携で地域をつなぐー「地域で誰もがいきいきと暮らせる共生社会に向けて」」（担当教員：坂本清彦准教授）では、11/24（金）にNPO法人「縁活」が運営する農福連携事業「おもや」で自然栽培されたさつまいもの焼き芋などを、本学の瀬田キャンパスに設けたマルシェで販売しました。マルシェの開催にあたり、受講生たちはチラシの作成やプロジェクト紹介ポスターの作成、ポップ作り、開催場所の確保にかかる打ち合わせなどといった準備作業をおこないました。当日、マルシェでは、焼き芋の他に、かぼちゃスープ、ドーナツなどが店頭に並び、無料の温かい麦茶も振る舞われ、通りすがりの学生や教職員らが足を止めてくれました。人通りが多くなる昼休みの時間帯には、予想を超える売れ行きで、用意していた焼き芋は、焼き上がるまでの待ち時間が発生するほど大盛況でした。

## ドローン飛行練習をおこないました



▲ドローンの高度を上げて  
飛行練習する様子

「自治体をPRしてみる！」（担当教員：岸本文利教授）では、自治体の広報現場に参画し、地域の魅力を映像でPRすることを目指して活動しています。11/24（金）に、映像制作ツールのひとつとして使用しているドローンの飛行練習をおこないました。担当教員指導のもと、2年目受講生である岩井田雄大さん（現代福祉学科3年生）が1年目受講生たちに操作方法を説明し、全員が飛行練習をおこないました。少し風が吹いており、コンディションとしてはあまりよくありませんでしたが、目の前で舞い上がるドローンに歓声をあげたり、思わず自身のスマートフォンで撮影したりと、楽しんで操作方法を学びました。今後は、今回学んだことを取り入れながら、動画作成に取り組みます。



◀ 初めてドローン  
飛行させる学生



◀ ドローンの  
操作方法を  
説明する様子



▲手分けして調理を進めました



▼談笑しながら食事をする様子

## 「男の料理クラブ」開催で60歳以上の高齢男性の老後を明るくコーディネート

「地域エンパワメント・大津中央」（担当教員：脇田健一教授）では、12/16（土）に、60歳以上限定の「男の料理クラブ」というイベントを開催しました。

このイベントは、受講生たちが滋賀県大津市中央学区での聴き取りをおこなうなかで、60代以上の仕事をリタイアした男性が地域社会とのつながりを持てるように、「地域デビュー」を応援していくことが大切な課題であることに気づき、中高年男性が「地域デビュー」の一步を踏み出すために企画されました。当日は7名の方々に参加していただき、材料の確認や買い物から始まり、手分けして計6品を作りました。

担当教員からは、「無事に盛り上がり良かったです。今後、第○日曜チーム、第○土曜チームといった具合にチーム数が増えて料理仲間が増えていくと素敵だなと思います。いずれ、地域の夏祭りや年末の集いでご活躍いただけると嬉しいです。」といった感想が述べられました。

最後に、安孫子邦夫さん（滋賀県大津市中央学区自治連合会・顧問）からは、「このイベントは料理を作るためではなく、地域活性のきっかけとして開催されました。今回を契機として、次は地域住民である私たちが率先して盛り上げていく番だと思っています。」といった力強い感想をいただきました。

## コミュニティカフェ「ほっこり」を紹介するパンフレットをつくりました

「多文化共生のコミュニティ・デザイン～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～」(担当教員：川中大輔准教授)では、一つのチームが多文化共生社会の実現を目的として、NPO法人東九条地域活性化センターが運営しているコミュニティカフェ「ほっこり」(京都市東九条)で活動しました。その中で受講生は地域住民の方々に多文化共生の理解と居場所づくりに関心を抱いてもらうことを課題として設定しました。

受講生は「ほっこり」での1年間の活動を通して、常連のお客さんが多いことを感じ、もっと地域に住む外国人や高齢者の方々に「ほっこり」の存在を知ってもらいたいと考えようになり、多文化共生に興味のある人にも「ほっこり」の認知度を高めていきたいと思うようになりました。そこで、現在の「ほっこり」の全体像がつかみとれるパンフレットを作成することとなりました。試行錯誤を繰り返し、作成したパンフレットを東九条地域全般、また「ほっこり」周辺の市営住宅やエルファや希望の家などに、受講生が実際に足を運んで、約2200枚のポスティングを行いました。地域の方々からは内容も豊富で読みやすいなど、高評価の声を頂きました。「このパンフレットをみて実際に足を運んでくれる人がいるかは今後の課題であると考えます。そのために私たちは『ほっこり』という居場所を知ってもらうために、今後はSNSの更なる活性化などの広報活動をしていく必要があると考えています」と受講生は語りました。



▲表紙のデザインは「ほっこり」の  
象徴的な暖簾です

▼ポスティングも手分けして頑張りました

